

2021年7月の行事予定表

1	木	祈祷会	16	金	
2	金		17	土	
3	土		18	日	礼拝式
4	日	礼拝式(聖餐式)、教会役員会	19	月	
5	月		20	火	
6	火		21	水	
7	水		22	木	祈祷会
8	木	祈祷会	23	金	
9	金		24	土	
10	土		25	日	礼拝式
11	日	礼拝式	26	月	
12	月		27	火	
13	火		28	水	
14	水		29	木	祈祷会
15	木	祈祷会	30	金	
			31	土	

7月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます

編集後記

- ◇ 父の日の原稿を寄せてくださった兄姉に感謝します。ありがとうございました。
- ◇ 一冊の薄い本「「なぜ」と問わない～3.11 被災地からみた災禍とキリスト教～」を読んでコロナ禍をどう受けとめるべきか考えさせられています。
- ◇ 著者・山浦玄嗣(はるつぐ)先生は宮城県大船渡市の開業医でカトリック大船渡教会員。
- ◇ 大震災のあと、東京から来るメディアの記者たちが、そろいもそろって「なぜ東北の人たちが、このようなひどい目に遭わなくてはならないのか」と聞いてきたとき、山浦先生は「なぜ自分たちがこんな目に」と言う人はこれまでひとりもいなかった」と答えたそうです。
- ◇ 『「なぜ」と問うこと自体意味が無い。自分の身の回りに起きていることの中に神さまのお言葉があるのです。それを見て、どうしたら自分はこの出来事の中で神さまのお役に立ち、喜んでいただけるだろうかということを一生懸命に考えろということです。』と書いておられます。

教会月報

2021年7月

No.362

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

他者への共感

「喜ぶものと共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。」

ローマの信徒への手紙 12章 15節

一昨年に新型コロナウイルスが発見され、たちまち世界中に蔓延しました。終息するようには見えましたが、変異性のウイルスの出現により再度世界中は混乱状況にあります。東京オリンピックの開催の有無は、数度の緊急事態宣言等でも安全・安心であるとは言いきれません。

さて、先日「岡山県・同和問題にとりくむ宗教教団連絡会議」主催の研修会が開かれました。テーマは「新型コロナウイルスへの向き合い方と人権」でゲストに①平松正臣氏(岡山県ハンセン病問題対策協議会会長)②菅田節子氏(岡山旭東病院 感染管理部門部長)③土居弘幸氏(元岡山大学大学院教授)の3名をお招きしての発題とパネルディスカッションでした。内容は、平松氏のご自身のお父様が新型コロナに感染された実際を語られました。介護施設でコロナを発症され、入院するも最期を迎え、午前中死亡が確認され、夜には荼毘に付されるまでの間、お別れもできず納棺袋に入ったままの別れはつらかったと語られました。

菅田氏は医療現場の最前線で、苦闘しつつ新型コロナ感染症に当たられ、手探りの状況の中にあって最善を尽くしてこられたことを語られました。結論としては、皆さんにコロナを正しく恐れてほしいと話され、治療薬ができるまでに我々ができることは、数種類あるコロナワクチンの接種を受けることが望ましいと奨められました。

土居氏のご意見は、今まで皆さんがお聞きになっていることですので割愛いたします。今も病める人たちに平安がありますように！ 医療従事者たちの上に神の力が注がれますよう祈ります。

私たちも、新型コロナウイルスの出現を、客観的に捉え、正しく恐れ対応できますよう主に祈ります。

牧師 永松 清

6月証し

信仰への導き～故 久保木勤先生を偲んで

I. S. 姉

1963年から2010年まで47年間の長きにわたり、ナザレン教団札幌教会で牧師として務めてこられた久保木勤先生が5月16日、天に召されました。

私が久保木先生に初めてお会いしたのは1964年。先生が札幌教会に来られて2年目の春です。先生は札幌教会こひつじ幼稚園の園長先生、私は新入園の園児 でした。もの心がつくつかないかの幼児の時に会いして、振り返ると私にとって久保木先生は、厳しくも優しく信仰に導いてくれた父に等しい方でした。私は幼稚園児だった時にイエス様が大好きになりました。そして幼稚園を卒園してから、まったく関わることのなかった教会に、26年の時を経て突然招かれたのです。それは幼子たち一人一人に、久保木先生が神様を信じて真剣に向き合い、幼稚園から送り出したのちも、救われることを祈り続けていてくださった からだと思います。

26年ぶりに戻った私を先生はとても喜んで迎え入れてくださいました。それが1988年の1月。私はその年のイースターに先生の導きで救われました。救われてから札幌での日々は先生の熱心に伝道する姿にすぐ近くで触れることができた大きな恵みの時間でした。結婚式、父の葬儀、私の兄嫁が急逝した時にも、先生は激しい雨の中を息子さんと葬儀に駆けつけ残された遺族のために祈ってくださったこと、母の受洗、先生のメッセージ集の編纂にかかわらせていただいたことなど、語りつくせない思い出がたくさんあります。

神様のご計画ですべてが成されていくなか、久保木先生が亡くなられたとご連絡をいただいた時は、突然のことで只々悲しく、悔しい思いでいっぱいでした。コロナのことがなければ、昨年の夏に札幌教会でお元気な先生にお会いできるはずだったからです。残念ながら先生がお元気なうちにお会いしたいという思いはかないませんでしたが、信仰に生きた久保木先生の背中には、これからも一人の信徒として歩んで行く私の前に変わらず生きています。

D.T.姉 私が小学校高学年（昭和35年頃）時分の父を思い出すのは、休日に和服で正座し囲碁に夢中だった姿です。新しい脚付の碁盤が届いた日は、嬉しそうに磨いたり撫でたり。ふだんは表情が暗く無口でしたが、私に碁碁の説明をしてくれたときは珍しく饒舌。でも、そんな父とは私が中学一年生のときに死別。毎年の「父の日」には少ない思い出を辿って過ごしています。

お父さん
ありがとう

父の日によせて

M.O.兄 父の日の思い出。今年はコロナの緊急事態宣言で、淡路の息子夫婦も帰って来られないから昨年の父の日に帰って来て、私の気に入る服を買ってくれて夜は孫達と一緒に夕食会をしてくれて、普段は一人なので本当に有り難かったです。息子の嫁さんは、来たら必ず淡路の花を遺影の前に活けてくれてありがとうございます。主イエス様に感謝しまして、思いを語りました!!



K.E.姉 父は12年前 89歳で亡くなりました。とても優しく、私達2人姉妹、裕福ではないけれど、我がまま一杯で育てられました。父は出征後、神経痛で帰郷。その後、勤労働員で島根県美祢市の海底炭鉱へ。多数の死者を出した大きな落盤事故の日、腹痛で出勤していなかった強運の持ち主。父は兄と弟を戦争で亡くし無理やりに農業を継ぐことになった。戦後、マスカットの栽培、ハウスの中にキャンベルを作った。柿、梨も作り品種も多かった。

孫の東京遊学に伴い、私達娘らは1年に1回、5年間、東京に両親を案内した。孫の大学まで連れて回った密な時間だった。父は死ぬまで働いた。私達にとっていい見本だった。この文を書いている時、父の声がした。

S.M.姉 父の日は毎年、教会学校でカードに感謝の気持ちを書いたものを渡していました。お父さんいつもありがとうと素直に気持ちを伝えていました。また神様が僕たちやまた家族のことも守って愛して下さっていることなど教会で学んだことも話していました。しかし今年は、お父さんの方から今年はいつものカードがないなあと。主人が毎年もらっていたカードを楽しみにしていたのも驚きました。

教会学校は、神様のことを学ぶ中、父の日・母の日・子どもの日などの節目に、みんなのおかげでここまで大きくなっていることに感謝も学んでいます。息子たちの心が豊かに成長しているのは教会のおかげです。今年はまだ教会学校がコロナで休校。残念ですが、コロナが終息して前のように楽しい教会学校が始まりますようにお祈りしています。

特集

聖書における雨と水 その1

旧約・新約聖書の主な舞台は、現代のイスラエル、パレスチナ地方を含む中東です（外務省分類による）。（地図で見ると、故・中村哲先生が灌漑（水利）事業に生涯を捧げられたアフガニスタンも中東地域です。）

この梅雨の時に、中東地域とりわけイスラエル、パレスチナ地方で雨と水がどれほど貴重であったかを知ること、わたしたちの聖書の理解に広がり深さが加わることを祈念し特集しました。

旧約聖書の最初のページ「創世記」から新約聖書最後のページ「ヨハネ黙示録」まで、水に関しては何と670か所、雨に関しては97か所の記載があります。その中からほんのごく一部をご紹介します。皆さんも、お気に入りの「雨と水」関連の聖句をピックアップされてみてはいかがでしょうか。

雨について。～ユダヤ地方の雨…祝福、恵み、聖霊の象徴～

・秋の雨：初めの雨、先の雨ともいう。穀物種まきの時期。10月末から11月頃降り始める。

・春の雨：後の雨ともいう。収穫の時期。ペンテコステ（収穫祭）

旧約聖書

申命記 十一：十四 『わたしは、その季節季節に、あなたたちの土地に、秋の雨と春の雨を降らせる。』

ホセア書 六：三 『我々を主を知ろう。主を知ることが追い求めよう。主は曙の光のように必ず現れ降り注ぐ雨のように大地を潤す春雨のように我々を訪れてくださる。』

ヨエル書 一：二三 『シオンの子らよ。あなたたちの神なる主によって喜び踊れ。主はあなたたちを救うために、秋の雨を与えて豊かに降らせてくださる。元のように、秋の雨と春の雨をお与えになる。』

新約聖書

ヤコブの手紙 五：七・八 『兄弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい。農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです。あなた方も忍耐しなさい。心を固く保ちなさい。主が来られる時が迫っているからです。』



<特集・水について、は次月掲載予定です>

